

# 総務建設経済常任委員会会議記録

1. 期 日 令和2年2月13日(木) 開会9時30分  
閉会10時08分
2. 場 所 第1委員会室
3. 付議事件 「吾妻山公園の活性化について」  
・移動手段拡大の可能性について
4. 出席者 二宮委員長、坂本副委員長、善波委員、羽根委員、杉崎委員、大沼委員、  
根岸委員、野地議長  
傍聴議員 5名  
一般傍聴者 0名  
議会事務局 3名 局長、課長、主事
5. 経 過

---

## 吾妻山公園の活性化について

### 委員長

総務建設経済常任委員会の皆さま、本日は正式委員会として次にどのように進めるかという流れをしていきたいと思うが、その前に今まで委員会としてやってきた流れをまとめたので、少しお耳を拝借する。

総務建設経済常任委員会では継続調査として、産業振興の推進の中の「吾妻山公園の活性化」について協議・検討を行った。その中で、誰もが吾妻山公園の空、海、菜の花を含む山頂の眺望が堪能できる観光へのシフトが重要であると捉え、共生社会に即した移動手段を考えることこそが将来にわたり、「吾妻山公園」を町のシンボルとして存続できるのではないかと、現在結論付けている。現在、吾妻山公園を堪能できる方は、健脚の持ち主に限られている。しかし町内外からは、移動手段が今以上に整備されるのであれば、ぜひ吾妻山公園からの眺望を目にしたいとの声は多くあり、このことは、吾妻山公園の景色だけの観光資源にとどまらず、町の飲食サービス業や地域産業への経済効果へ波及を及ぼすことは必然であると思う。このような点から、今以上に共生社会に即し、今後の人口動態をも先取りした山頂への移動手段について、いっそうの協議を進めていきたいと考え、登り口から山頂までの限定された距離での電動カート等による移動手段と、町全体を視野に入れた国土交通省でも推進・研究を進めている MaaS の活用や、その他の移動手段について本日協議したいと思う。参考として電動カートについて、現在実証実験を横浜市で行っているが、内容について資料としてお手元に資料として配布している。MaaS というのが初めて出てきた内容だが、マイカーを1か所に置いて、その後の移動手段はどうするかという話も何回か前に出てきたかと思うが、そのときに大沼委員からこういうのもあるということで情報提供いただいた。初めて出る内容 MaaS で、少し説明をさせていただく。この MaaS とは、ICT を活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、又その運営主体にかかわらず、マイカー以外の全ての交通手段によるモビリティ(移動)を一つのサービスにとらえ、シームレスにつながり新たな移動の概念である。利用者はスマートフォンのアプリを用いて交通手

段やルート検索を利用し、運賃等の決済を行う例が多い。MaaS の定義は、現在発達中の新しいサービスであることから、先行している例が海外においても定まったものがないのが現在である。結果的には色々な種類の交通サービスを需要に応じて利用できる一つの移動サービスに統合するものということだが横浜でこのような実証実験をやっているが、Web サイトやスマートフォンのアプリから予約をすると乗客定員7人の乗り合いバスを利用できる仕組みということで正式に発表されており、青葉台地区周辺の福祉施設、商業施設、幼稚園など約100箇所の情報場所をつなぐということだが横浜市では乗り合いバスの実証実験とともに、電動カートも2つやっている。吾妻山の限られた地域へ電動カートというのが今までの私たちの話に出てきたが、横浜市では高齢化が進む京急沿線の丘陵地で電動小型低速車、最高時速19キロだそう。この2台による実証実験を10日間行った。この横浜丘陵地で「富岡第一地区ルート」と「京急ストア、能見台店」へ向かうルートの2本で、このカートは普通免許で運転可能で、ゆくゆくは免許を保有する地域住民も運転することができるという電動カートの種類である。実証実験中は京急のタクシーの運転手が操作をされたということである。この車は左ハンドル、ということで私の調査はここまでだが、電動カート、MaaS に似た乗り合いバスは、かなり視察が来ている。交通手段、移動手段について協議をして、視察先なども決めていけたらよいのが本日の議題だと思うがこの点についていかがか。

大沼                   これからモビリティサービスというか、今までは大型の公共交通、もしくはタクシーの移動が主だったが SDGs の関連性も考えて、環境にやさしいとされる移動する媒体が求められてくるのかと。そうすると燃料とかあまり多く使わない、タクシーだと一人だけが乗っているのに1台の乗用車が動くということだが、相当なロスがあると思うが、今後の高齢化、交通移動支援を考えるとやはり先進サービスに対するアンテナと言うものは、この二宮町の総務建設経済常任委員会ではしっかり確認していくことが必要だと思う。

委員長               今後、大沼委員の提案された MaaS を含めた考えで進んでいけたらという内容だが。

羽根                   先進のこういうのを導入して考えていくのはやっていきたいが、これを使う方々がほとんどスマートフォンのアプリを利用できる高齢者の方なのかということがあるので、高齢者の方も予約とか活用が出来るような仕組みを考えないとならないのかと。タブレットなのか分からないが。そこは絶対やらないといけないのかと思う。

委員長               高齢者も利用しやすいシステムを中心にとということで。2人の委員から貴重な意見をいただいた。私の整理がお粗末で申し訳ないが、私たちのテーマは吾妻山公園の活性化であり、吾妻山にどのように移動支援をしていくかということを中心と踏まえながら、交通手段について今後方向性を見つけていきたいと思う。

大沼                   さきほど MaaS とモビリティサービスの部分にしか触れなかったが、その関連性を省略してしまったが、もちろん現在取り組んでいる吾妻山の移動交通支援でそこがもとになっていくという考え方で話をしたつもりでいた。なぜか

というと、新たな交通のサービスと言うものが、いきなり公道とか、一般道で開始していくとか、かなり障害とかもあることだと思う。それはおそらく道路の整備環境とかそういったものも同時に進行していかなければならないことだと思う。そうなるを実験的に取り組まれたという横浜市の京急ストア、横浜の丘陵地と実証実験に近いかたちで、二宮町の中でもどういったかたちの乗物が適していて、それがどれだけ効率性のよい活用が出来るのかというところをまずは吾妻山の登山道のところで検証していきながら、そこから今度は未来に発展していったかたちで町内の交通網にも結び付けていけるようになればよいのかという意味合いで先ほど話した。

二宮 大沼委員から今後の流れについてと今のお考えをいただいた。私は委員長としてはそういう流れで行きたいと同意させていただく。今後3月議会が終わったら実証実験やっているところへ視察に行きたいと思うが、他に私は横浜市の実証実験を例として探したが、他のところはいかがか。委員の方で実証実験や委員の方でご存知の方がいたならそこも視野に入れて今後見に行きたいと思うが。

杉崎 これは色々なことに飛んでしまっているが、吾妻山で使おうとする電動カーについてやっているのか。コミュニティバスではないのか。そういうこといきそうだった。それで、確認した。三重県の明和町で東大と組んでコミュニティバスを現場でどこでも呼べるシステムを15年前にできている。それを議会で見に行ったことがあるが、そっちのほうではないのか。山に登っていく電動カーということか。聞き漏らしてしまったが何人乗りか。

二宮 4人乗り、後ろの席に4人である。使ってもよいという写真が発見できなかった。

杉崎 ということはゴルフ場で使っているやつか。

二宮 そうである。運転手を別にして客席は4席あった。運転手のところがひとつ、もうひとつで2人。

善波 視察は良いが、問題は吾妻山の中里口から許可を取った軽車両については、上がれるようにはなったが、その辺が解決していかないと。行政がそういうような道路にするという意思がないと、いくらこれをやっても行政の考えがどこまであれなのか。うわさによると、芝桜のところも今度廃止するかもしれないということで、あのへんを折り返しのUターンの場所にするとか。行政の考えが車で上がれるようにすると将来そういう考えを持っているということが明確にならないと、これいくら研究しても行政が車を上げてはだめだと言われたらおしまいである。先にそこのところを行政とすり合わせして、そういう計画をもってやるのかと、こういう提言をしたいが、行政がそれについて、拡幅工事だとか道路の整備をして、車をあげるということの考えを持っているところをちゃんとしていかないといけないと思うが。その辺を先に行政とやり取りしていったほうが良いと思うが。交通手段については色々あると思うがいかがか。

坂本

我々の会議は最初の目的で何とか年寄り、障がいのある方々が、頂上までわりと簡単に行けるということを作ろうと。公共交通とかそういうものとは違う。簡単に言えば、中里口の門のところからスタートするのか、町道の中里入口からスタートするのかとか、現実の問題をもっとつめないで。たとえば、北口の駅に降りたお年寄りがそこからスタートできるのか、または、ラディアンに車で来た人がそこから中里口までスタートができるのかとか。そういうようなことを行政と組んでやっていくべきで、中の車なんていうのはゴルフ場に視察に行けばすぐに分かる。そんな難しいことではない。登りくだり交差するとか、信号を上と下に付けといて上り下りするとか。ちょっとした工夫をすれば。歩行者どうするのか、歩いていく人は今のままでは拡幅しないと無理だねとか。そういうようなことを、行政と1回つめていく必要があるのではないかと。我々の願いは、9月にこれを出すと思うが、その時にはぜひそういうことを実現してほしいという要望を委員会として出すと。正副委員長は担当部署と話しているが、こんなこと言っただけではいけないのか。優先順位1位として受ける用意があると言っている。行政は今。われわれ広告選定とか色々出した。そういうのは通常の業務としてやるけれども、お年寄り、障がい者を上に上げるのを最優先にするので、そういうようなことを要望として出してほしいと。それを受けて、行政が来年度にもんで、再来年に予算化すると内輪では徹底しているわけではないが、話し合いはできている。だからもっと具体的に勧めていった方が。あそこだけ、集中してぜひ実現してという方向にもっていくのが良いと思う。こう波及していくと理想に近いが、またそれでピンボケになってしまうといけないうし。この委員会として今回実現させるんだと。それを集中して行政に報告書として出すようにしたら、きつとうまく行くと思う。財政の問題もあり、拡幅する時間の問題もあるし。その後でどういう車で上げ下げするのかと言うときにちょっと見に行こうとか、行政はそういうことを受ける代わりに必ず自分たちもやっている、そういう資料をもって。合体して資料提供しても視察はこの間みたいと一緒にいくとか、いろんなことでできると思うので私はそういうふうなことが早い。委員会として何とか実現したいわけである。そういうふうになっている。

杉崎

提案するなら運行までやった方がよい。真夏の暑いときに誰も行かない。そういう時はその車は休みなのか。菜の花から桜までは行ったとしても年に3か月か4か月しか運行しないがそれでもよいかどうか。

二宮

スタート期間とスタート期間と1年ずっとやるかどうか、坂本委員から色々な今後のテーマがあったが、まとめていくと善波委員もそうだが乗り物よりもまずは点在している観光に来た方たちをどのように山道まで運ぶかというのが1点目と吾妻山登山口から吾妻山への道路の拡幅だが、拡幅については委員長としても前回は執行者との話で出た通り、かなり具体的な話し合いが出たので、今回は抜かしたが、これは提言書には道路はどうしても必要なものでこれを盛り込んでいくという方向で委員会として考えていた。道路の拡幅がきちりできないと、その次の話しが運んでいかないという思いがする。ご提案の駅とかラディアンから登山口までどのようにしていくかと、確かに問題はあるが、こういうところを踏まえて大沼委員から話 MaaS があり、提案が出たということだが、以前から駅とかラディアンに移動手段が必要な方をどのように運ぶか、かなり問題になっていたがこれに対していかがか。

大沼 確かに駅、ラディアンを吾妻山までつないでいけたらとても良いと思う。新しい取組みの中で、いきなり大きくつないでいくことはなかなか簡単ではないと思うと、まずは試験的導入の中でどのくらいの需要とか、利用される方の案件というか、声を集めた中で次の段階に進んでいくような。一つの構想としては駅からつないでいくというような内容で進めることが望ましいと思う。第一段階としての中里口のところの下から上まで安全に運ぶことができたという実績を作っていくことが一番必要なのかと思う。

二宮 今大沼議員からご意見出たがこれに対してはいかがか。

根岸 実績のところだったら、祭りのときに環境課で電動自動車をラディアンから出したりしたと思うが。ああいう取組みの中に入れてもらうとか、絶対必要なのは、坂本委員がおっしゃったように駅からとか、あるいはラディアンからつなげられると良いと思うので。提案としてそこに最終的に向けれるように、町の取組みに差し込めるのではないかとということも言っていきながらが良いのではないか。具体的な提案についても、もう少しこの委員会でもむのか。私自身としては今日の話は唐突で、付いていくので精一杯だった。どうやってこれから提案までまとめていくのかと思ひ質問した。

議長 皆さまおっしゃるとおりで遅くとも9月には委員会として提言書を提出するのが目標で、提言書の内容は出来ているはずだが本日は12月定例会から今までやった活動内容を皆さんに共有し、さらに継続調査するのであれば3月定例会後から6月定例会までの活動内容、今車の話も出たがそれも少しまとめるための30分だと思っていたのでどの車をどうするのかというのは、これからの研究テーマだと思うので、できればそちらの方にシフトしていただき、委員長報告が出来る内容をここで詰めていただきたい。

二宮 まとめるが、今まで本当に吾妻山の頂上に移動支援をどうしていくかがメインで話されていたと思う。今回このような参考のものを用意したが、登山口までどう運ぶか、確かに出ていたが、これが次の問題になるのではないかと思うかがいかがか。これも合わせてこれからの研究にしていくという追加の項目になるのではないかと私は思うが。

休憩 9時57分  
再開 10時07分

二宮 今回、私が先ほど今までの流れをまとめた。視察に関しては、今後も研究はした後、視察は行きたいと思うが、今回2点参考として電動カート、MasSなどを出させていただいた。その前に山頂まで移動困難者がスムーズに行けるよう今後とも研究していくことを調査・研究のテーマとさせていただくが皆様よろしいか。

議長 結構だと思う。確認させて欲しい。調査・研究のテーマは吾妻山公園の活性化についてで、その中でも移動手段拡大の可能性についてを本研究テーマを通して継続するというところでよろしいか。

二宮

はい。本日の内容を後ほどの全協で発表させていただく。今後ともよろしく  
願う。

閉会 10 時 08 分